

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

PROGセミナー2015

PROGから見えてきた 学生像

主催 学校法人河合塾 株式会社リアセック 株式会社KEIアドバス

PROGで見るジェネリックスキルの2側面

PROGでは、ジェネリックスキルを「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から測定している。
 「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるもの。
 「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるもの。



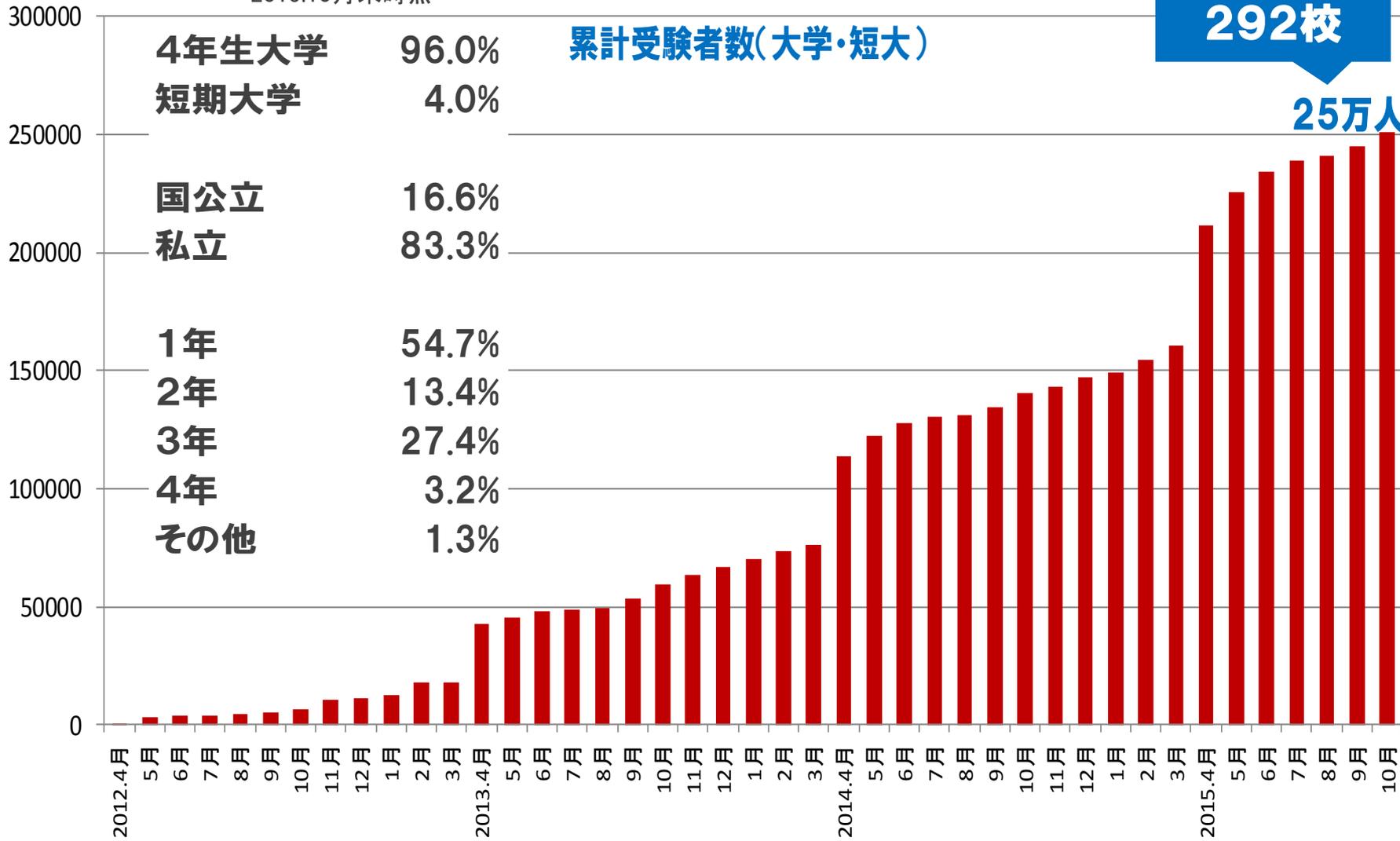
受験者内訳(人数ベース)

2015.10月末時点

**実校数
292校**

累計受験者数(大学・短大)

25万人



～大学生10万人のジェネリックスキルを初公開～

PROG

白書 2015

新しい
タイプの
能力測定

産業界と
教育界を
つなぐ

PROGで
教育を
変える



学校法人河合塾・株式会社リアセック 監修
PROG PROG白書プロジェクト 編著

受検者全体 N = 101,389
(リテラシー、コンピテンシーのいずれかの受検者)

リテラシー受検者 N = 90,625

リテラシー受検
かつ
コンピテンシー受検

N = 86,429

コンピテンシー受検者 N = 97,096

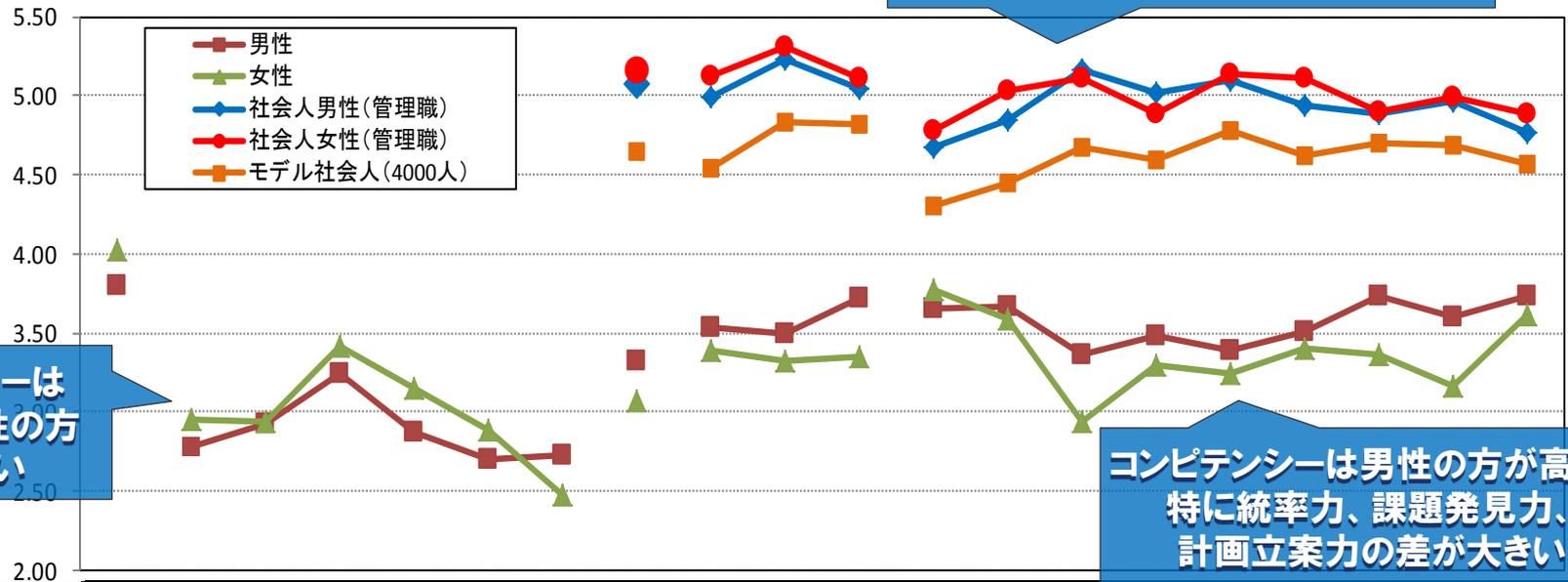
ただ今2016年版を作成中。後半ではその内容にも触れます



PROG白書に見る 学生像

男女別の傾向

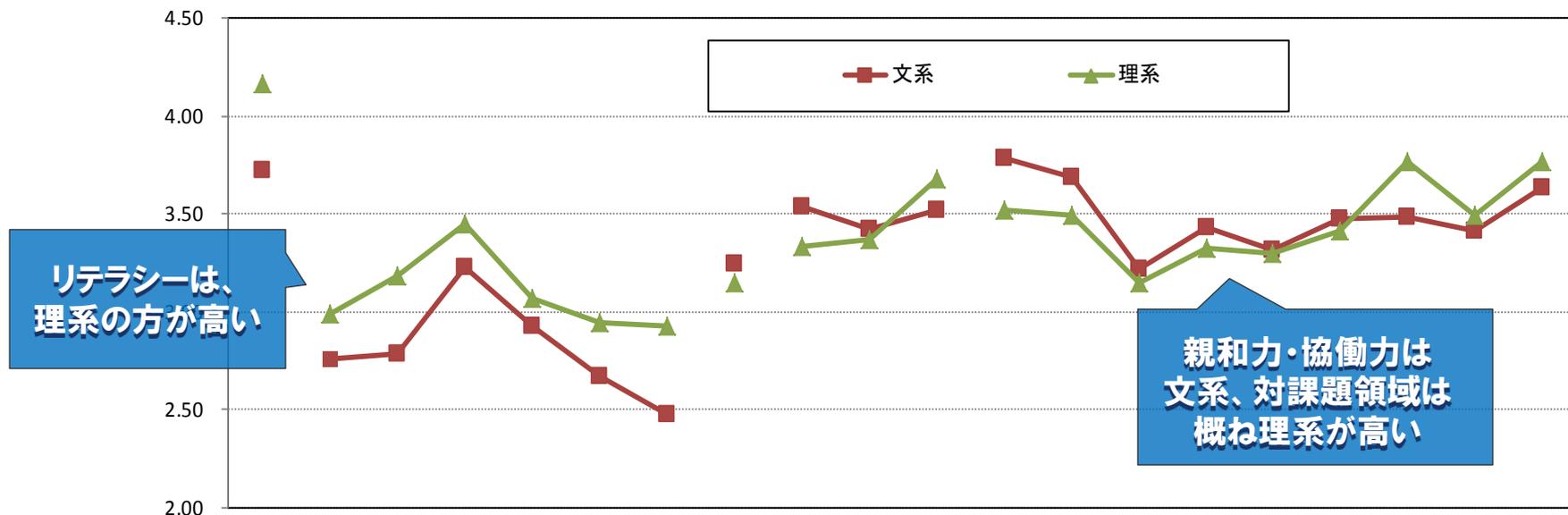
(若手)管理職においては、
女性・男性による差はほぼ見られない。
統率力、課題発見力、計画立案力
においても差は見られない



	N数		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体	90,625	97,096	3.89	2.85	2.93	3.31	2.99	2.78	2.63	3.22	3.47	3.42	3.56	3.70	3.64	3.19	3.40	3.33	3.47	3.58	3.42	3.68
男性	52,698	56,539	3.80	2.78	2.92	3.24	2.87	2.70	2.73	3.32	3.54	3.49	3.72	3.65	3.67	3.37	3.48	3.39	3.51	3.73	3.60	3.73
女性	37,927	40,557	4.03	2.95	2.94	3.41	3.15	2.88	2.48	3.08	3.38	3.32	3.34	3.78	3.59	2.93	3.29	3.24	3.40	3.36	3.17	3.62

モデル社会人：企業内において「35歳までに役職に就いている」または「直接に管理しているメンバーが複数いる」若手ビジネスパーソン(4000人)

文系・理系別の傾向

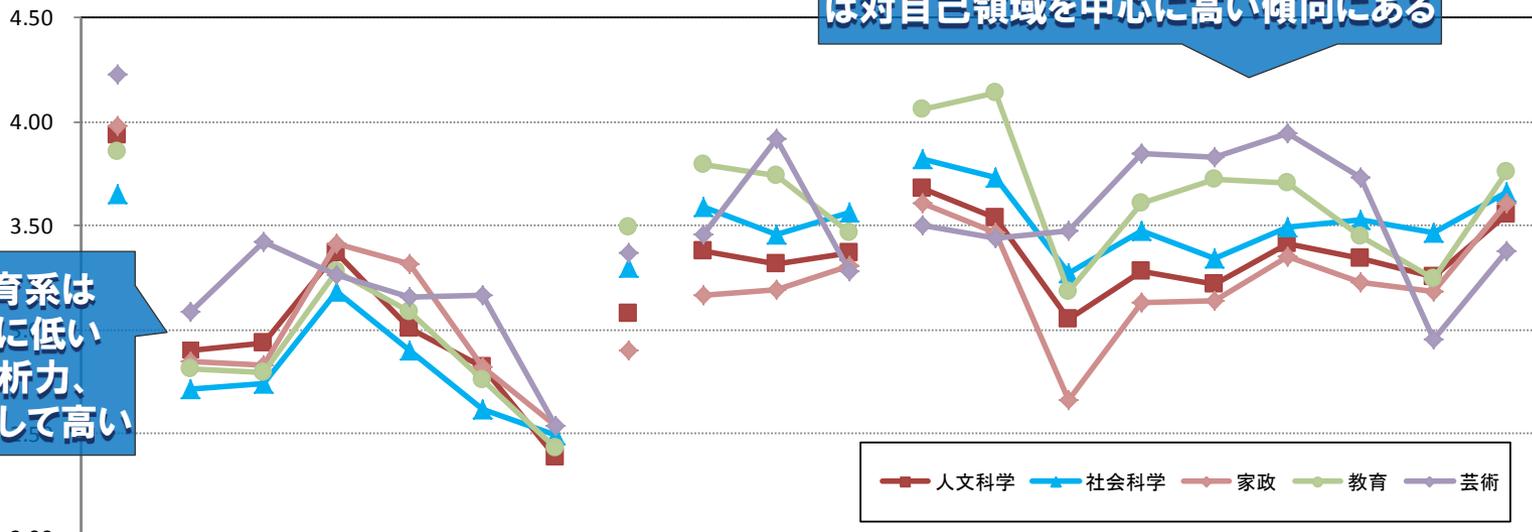


	N数		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
合計	90,625	97,096	3.89	2.85	2.93	3.31	2.99	2.78	2.63	3.22	3.47	3.42	3.56	3.70	3.64	3.19	3.40	3.33	3.47	3.58	3.42	3.68
文系	51,414	53,645	3.72	2.76	2.78	3.23	2.92	2.67	2.47	3.24	3.54	3.43	3.52	3.79	3.68	3.22	3.43	3.31	3.47	3.49	3.41	3.64
理系	30,788	33,540	4.16	2.98	3.18	3.45	3.06	2.95	2.92	3.15	3.33	3.37	3.68	3.52	3.49	3.15	3.33	3.30	3.42	3.77	3.49	3.77
その他	8,423	9,911	3.97	2.89	2.93	3.34	3.09	2.85	2.48	3.31	3.60	3.56	3.40	3.87	3.86	3.15	3.48	3.52	3.58	3.42	3.24	3.63

学科系統別(文系)の傾向

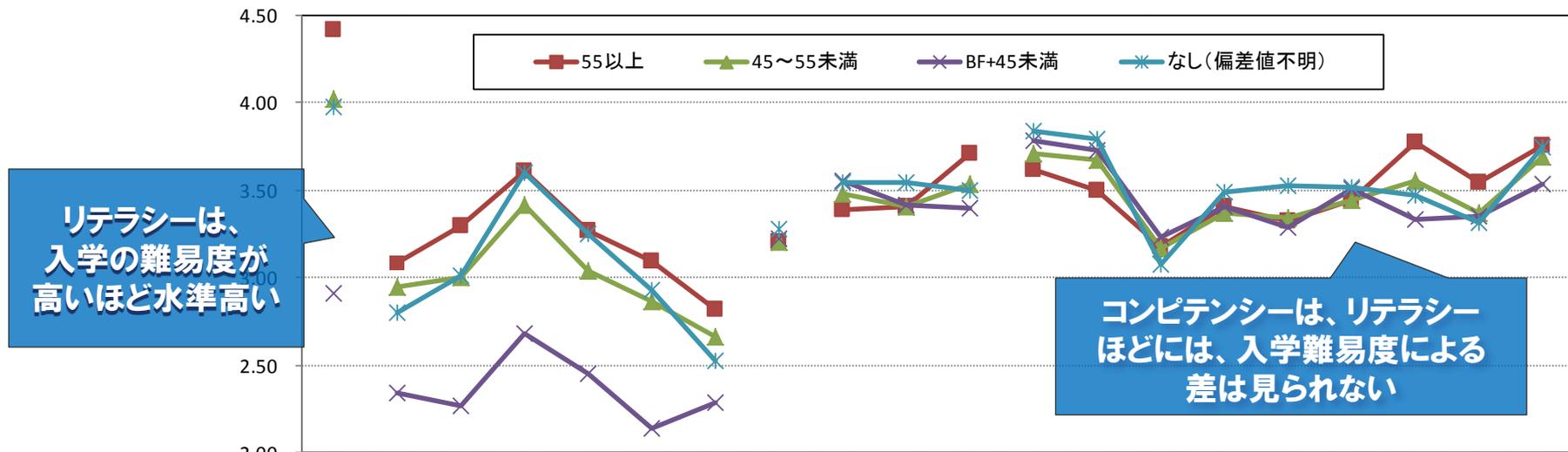
人文科学系、家政系の学科は
全般的にコンピテンシーが低い。
一方で、教育系は対人領域、芸術系
は対自己領域を中心に高い傾向にある

社会科学系、教育系は
リテラシーが全般に低い
芸術系の情報分析力、
言語処理力が突出して高い



N数		リテラシー								コンピテンシー											
リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体	90,625 / 97,096	3.89	2.85	2.93	3.31	2.99	2.78	2.63	3.22	3.47	3.42	3.56	3.70	3.63	3.19	3.40	3.33	3.46	3.57	3.42	3.68
人文科学	11,370 / 12,341	3.94	2.90	2.93	3.37	3.01	2.82	2.38	3.07	3.38	3.32	3.37	3.68	3.53	3.05	3.28	3.22	3.41	3.35	3.25	3.56
社会科学	39,682 / 40,947	3.65	2.71	2.74	3.18	2.89	2.62	2.49	3.30	3.59	3.46	3.56	3.82	3.74	3.27	3.48	3.34	3.49	3.53	3.46	3.66
家政	1,659 / 2,071	3.98	2.85	2.83	3.41	3.31	2.82	2.53	2.90	3.16	3.19	3.31	3.61	3.46	2.66	3.13	3.14	3.35	3.23	3.18	3.61
教育	4,114 / 4,709	3.85	2.81	2.80	3.28	3.09	2.75	2.43	3.49	3.79	3.74	3.47	4.06	4.14	3.18	3.60	3.72	3.70	3.44	3.24	3.76
芸術	566 / 548	4.23	3.08	3.42	3.26	3.15	3.16	2.54	3.37	3.46	3.92	3.28	3.50	3.44	3.48	3.84	3.83	3.95	3.73	2.95	3.38

入試偏差値別の傾向

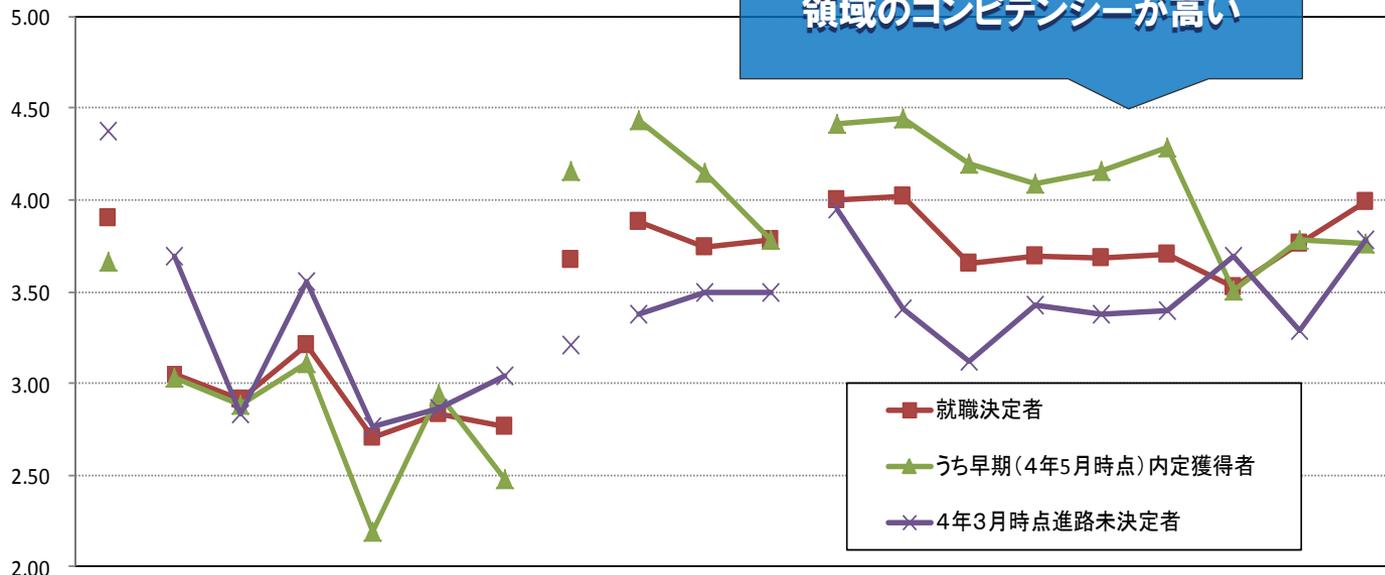


	N数		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	對自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体	90,625	97,096	3.89	2.85	2.93	3.31	2.99	2.78	2.63	3.22	3.47	3.42	3.56	3.70	3.64	3.19	3.40	3.33	3.47	3.58	3.42	3.68
55以上	30,443	30,617	4.41	3.09	3.30	3.61	3.27	3.10	2.82	3.20	3.39	3.41	3.71	3.62	3.50	3.18	3.41	3.32	3.44	3.78	3.55	3.75
45~55未満	34,173	38,122	4.02	2.95	3.00	3.41	3.04	2.87	2.67	3.21	3.48	3.41	3.53	3.71	3.67	3.16	3.37	3.34	3.45	3.56	3.37	3.70
BF+45未満	22,321	24,729	2.91	2.34	2.26	2.69	2.46	2.14	2.28	3.23	3.55	3.42	3.40	3.78	3.73	3.23	3.40	3.28	3.51	3.34	3.35	3.54
なし(偏差値不明)	2,910	2,854	3.98	2.80	3.01	3.60	3.25	2.93	2.52	3.28	3.55	3.55	3.49	3.84	3.79	3.08	3.49	3.52	3.52	3.47	3.32	3.75

就職決定状況の傾向(1)

卒業後の進路調査に
協力が得られた
5大学510名の分析

早期内定者は、対人、対自己
領域のコンピテンシーが高い



	N数		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
出口追跡集計(14卒就職希望者全体)	510	510	3.94	3.11	2.91	3.24	2.71	2.84	2.79	3.64	3.84	3.72	3.76	4.00	3.97	3.61	3.67	3.66	3.68	3.54	3.72	3.97
就職決定者	467	467	3.90	3.05	2.92	3.21	2.71	2.84	2.76	3.68	3.88	3.74	3.78	4.00	4.02	3.66	3.70	3.68	3.71	3.53	3.76	3.99
うち早期(4年5月時点)内定獲得者	69	69	3.67	3.03	2.88	3.12	2.19	2.94	2.48	4.16	4.43	4.14	3.78	4.42	4.45	4.20	4.09	4.16	4.29	3.51	3.78	3.77
4年3月時点進路未決定者	43	43	4.37	3.70	2.84	3.56	2.77	2.86	3.05	3.21	3.38	3.50	3.50	3.95	3.40	3.12	3.43	3.38	3.40	3.69	3.29	3.79

就職決定状況の傾向(2)

早期内定者と非内定者のPROGスコア比較

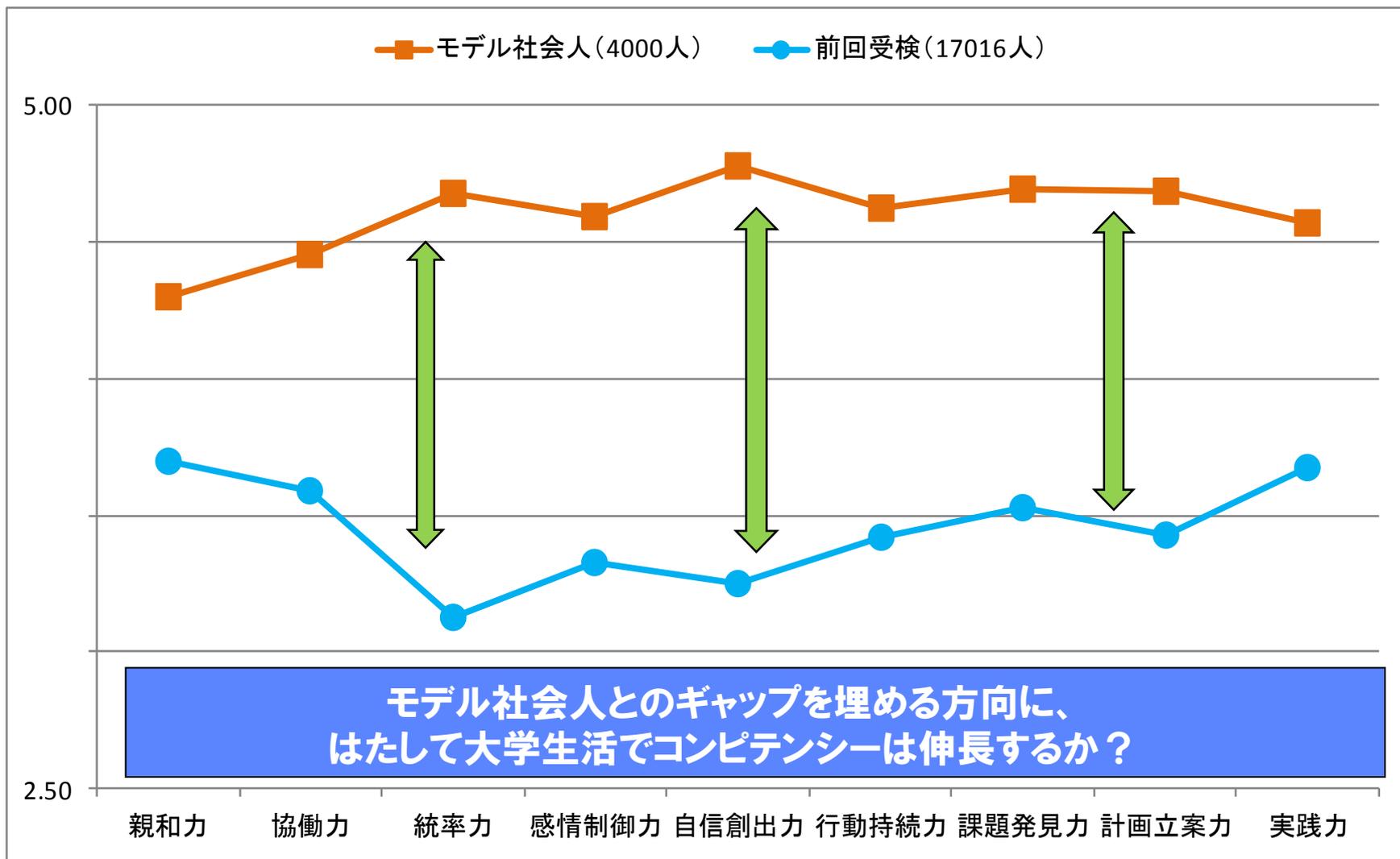
関東の
私立M大学の事例
学校特性によって
リテラシーが早期の
内定に関係する
場合もある



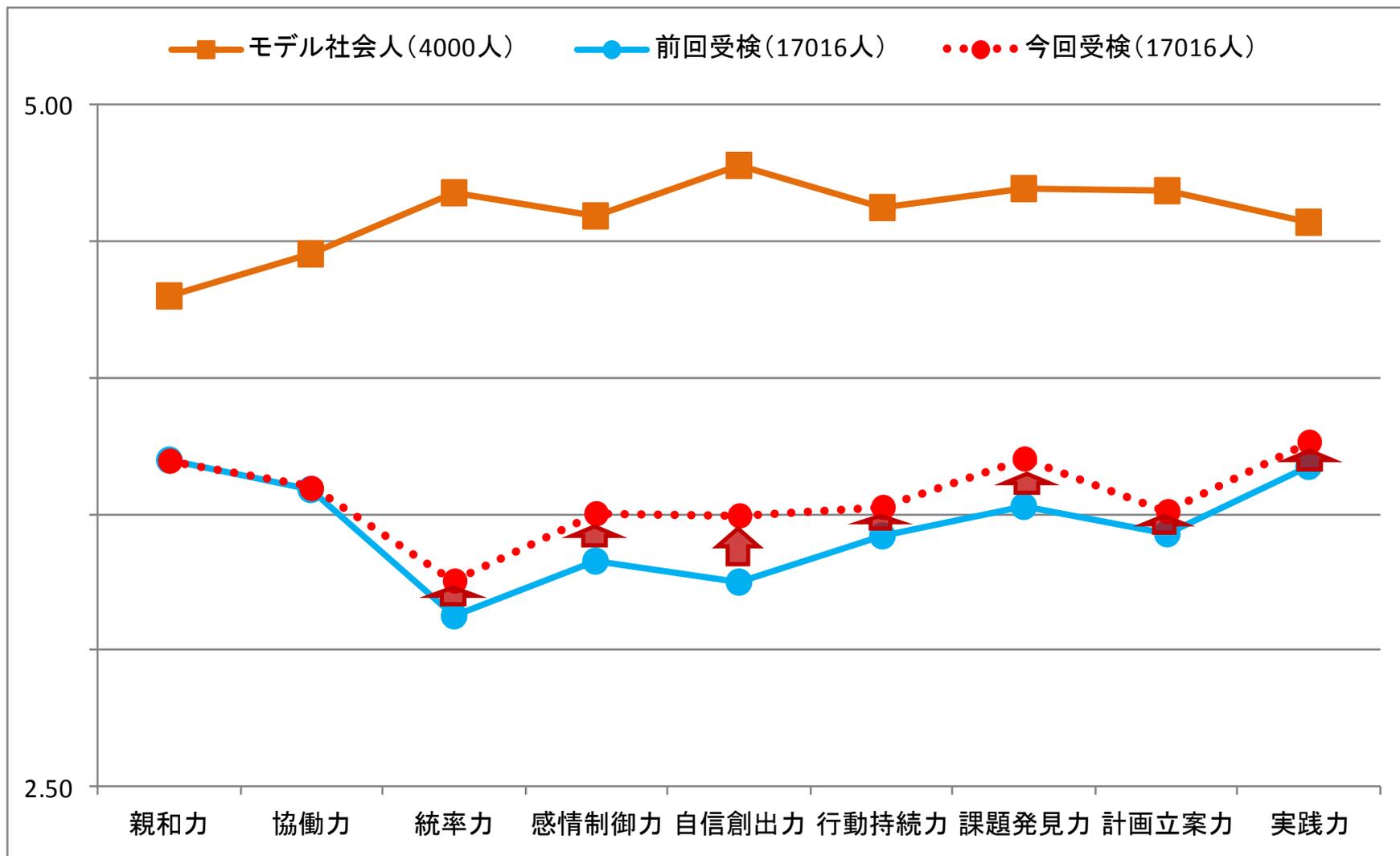
※早期内定者：4年生の5月までに(内)内定を得た学生

パネルデータに見る 成長の傾向 (コンピテンシー)

モデル社会人と大学生のギャップ

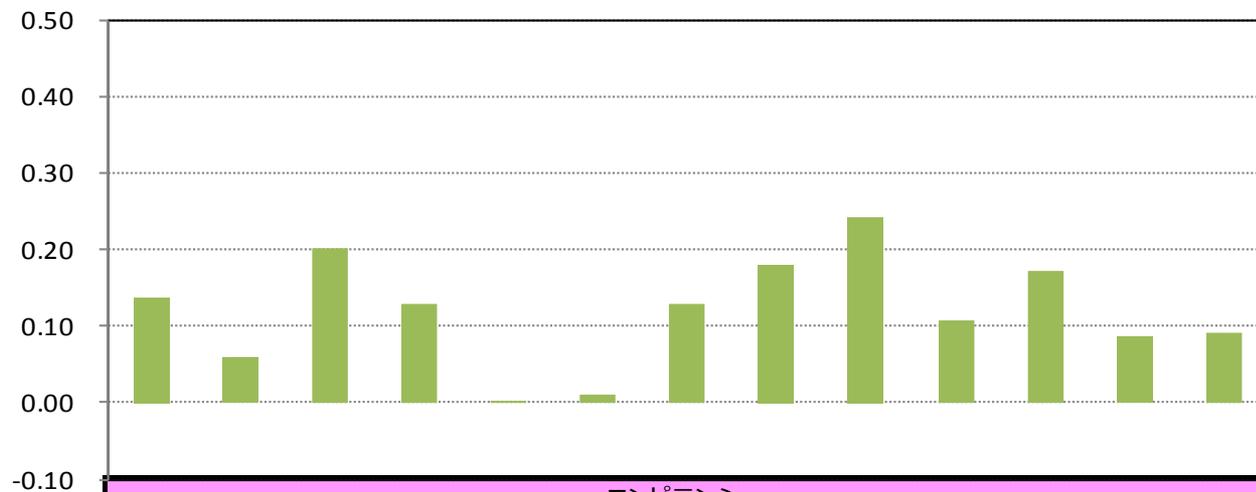


前回受検： これまでの受験者の中で、経年で2度以上受験した学生の初回の受験



今回受検：これまでの受験者の中で、経年で2度以上受験した学生のもっとも最近の受験

■コンピテンシー <全体>



	コンピテンシー												
	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
					親和力	協働能力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
①前回 (n=17016)	3.16	3.43	3.34	3.54	3.70	3.59	3.13	3.32	3.25	3.42	3.53	3.43	3.68
②今回 (n=17016)	3.30	3.49	3.55	3.67	3.70	3.60	3.26	3.50	3.49	3.53	3.70	3.51	3.77
平均差 (②-①)	0.14	0.06	0.20	0.13	0.00	0.01	0.13	0.18	0.24	0.11	0.17	0.08	0.09

平均値差の検定 (確率)

0.00 0.00 0.00 0.00 0.98 0.62 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00

変化の大きさをいうと、対自己>対課題>対人の順でコンピテンシーは伸長。
新生活で自律的な態度が開発され、授業で課題発見力が磨かれたのでは？

1%未満 = ◎

(1) コンピテンシーは伸びる

対自己基礎力 > 対課題基礎力 > 対人基礎力 の順

(2) 男性の方が伸びる

すべての要素で男性の方が伸びる

(3) 理系の方が伸びる

すべての要素で理系の方が伸びる。特に「課題発見力」の伸長が大きい

(4) 国立の方が伸びる

すべての要素で国立の方が大きく伸びる

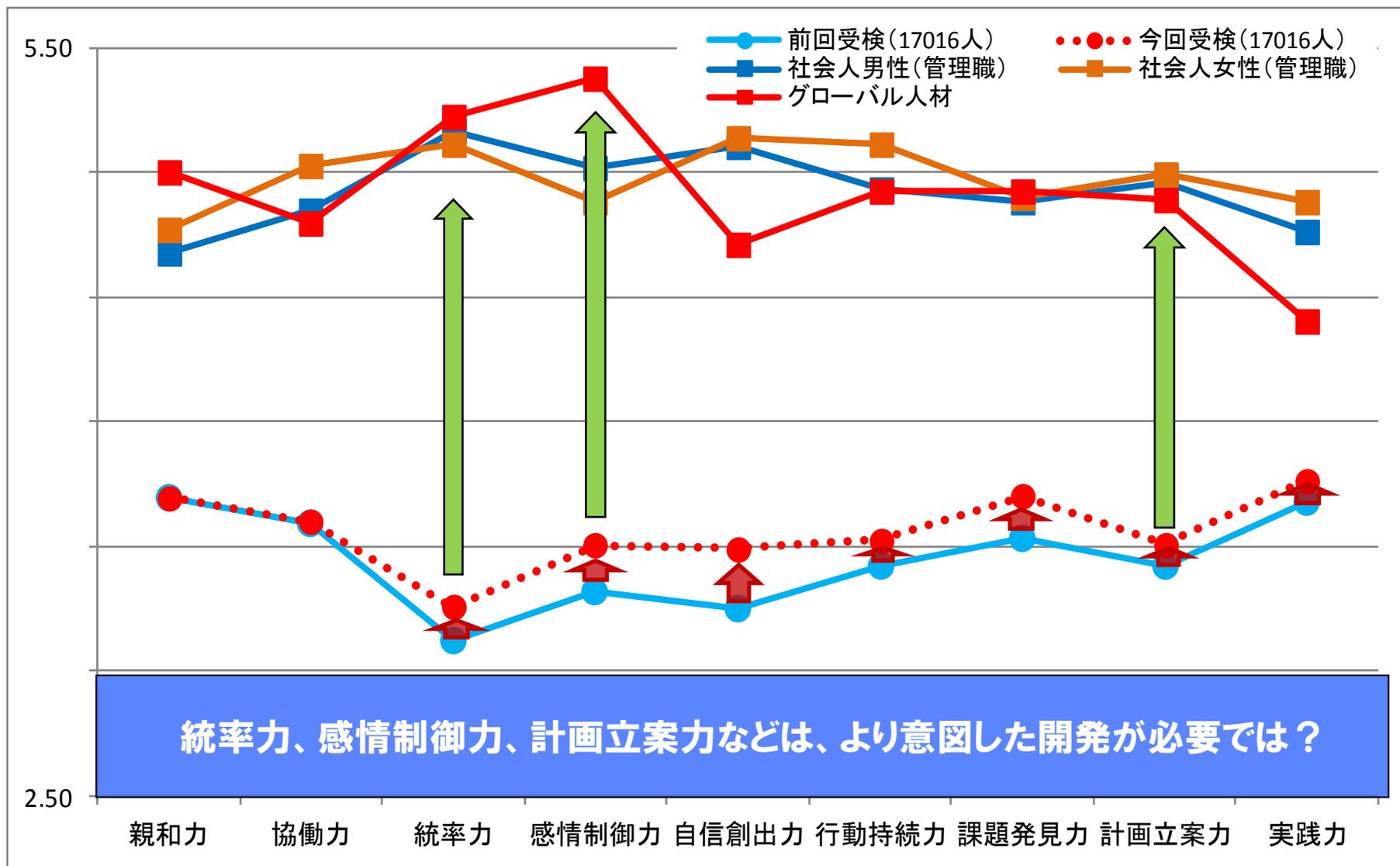
(5) 入試偏差値による違いはあまり大きく無い

入試偏差値の低い方が押しなべて伸びる傾向にあるが、その差はさほど大きくは無い

マクロな傾向を押さえたうえで、さらに各大学において、学生の学習経験や生活実態とジェネリックスキルの関係を分析し、伸長の構造を明らかにする必要がある

「タフ」な人材との比較

「タフ」な人材との比較

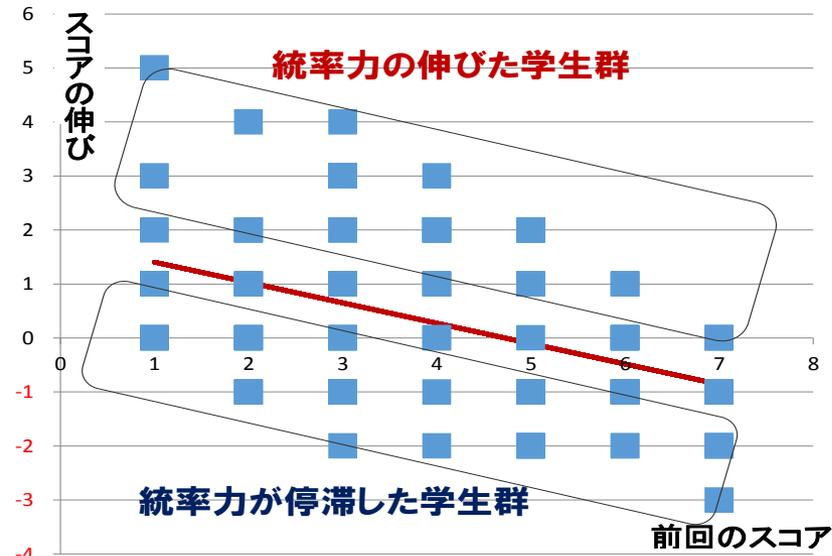


グローバル人材:25歳~49歳の日本人ビジネスパーソン。アジアにおいて、外国人のマネジメント経験があり、かつ、その当時のマネジメントに満足している者(735人、平均駐在期間は約4年)。

伸長要因の分析例

Generic Skills

数値や授業名は実際のものとは異なります

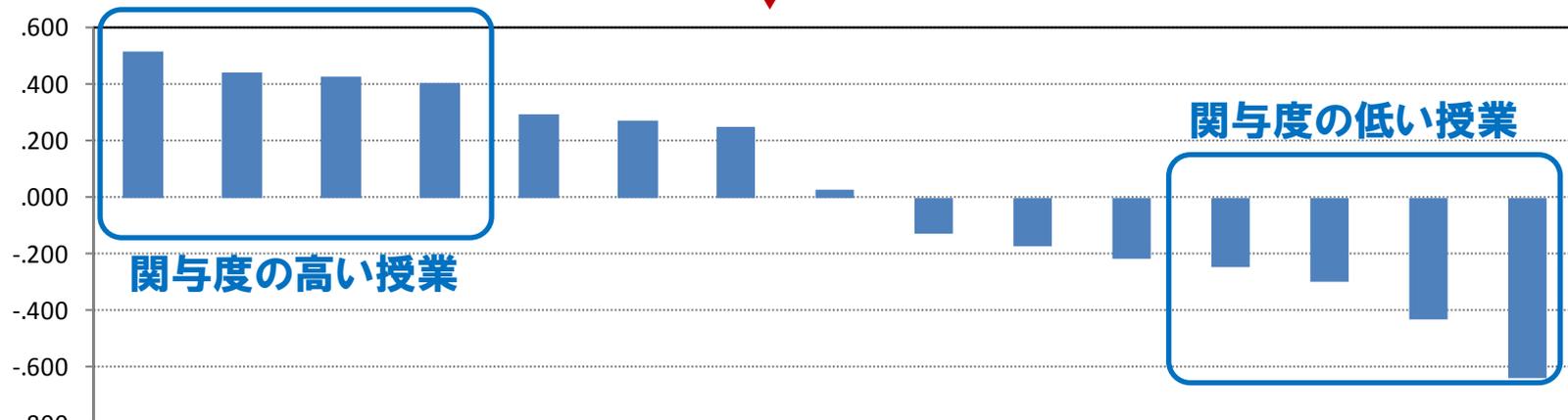


授業毎の学生の成績(単位の取得状況)を基に、

- ①伸率力が伸びた学生と、
- ②伸率力が停滞した学生を分ける「判別式」を算出。

どの授業が、伸率力の伸長に関与度が高いかを判定する。

■ 標準化された正準判別関数係数

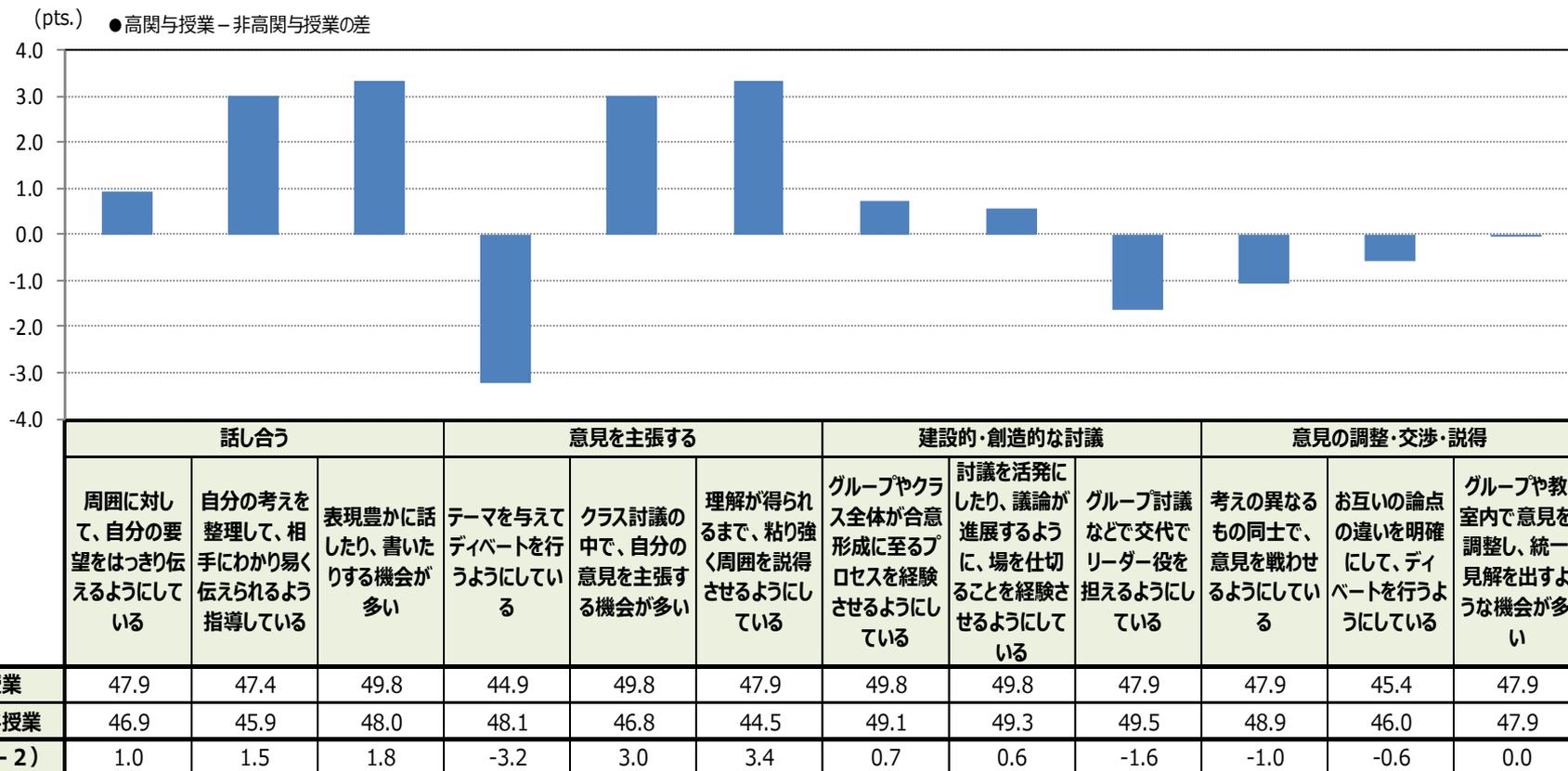


	テクノロジーと社会	社会システム概論	日本の文化・社会	世界と日本	情報デザイン論	社会調査方法論	知識とコミュニケーション	デザイン演習1	デザイン演習2	基礎造形論	情報デザイン論	社会統計解析	システム工学演習	エンターテインメントデザイン論	デザイン演習3
標準化された正準判別関数係数	0.52	0.44	0.43	0.40	0.30	0.27	0.25	0.03	-0.13	-0.17	-0.22	-0.25	-0.30	-0.43	-0.64

伸長要因の分析例

基礎力 中分類	Q: 先生の授業ではどのような取り組みを行っていらっしゃいますか？ またはどのような経験ができますか？ 当該授業の内容がどの程度あてはまるかをお答え下さい。	全く 当ては まらない	やや 当ては まる	当 ては まる	よ く 当 て は ま る
課題 発見力	ニュースや時事問題に関心を持たせるようにしている	1	2	3	4
	適切に文献を検索し必要な知識を収集させるようにしている	1	2	3	4
	様々な情報源を適切に活用できるよう指導している	1	2	3	4
	思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導している	1	2	3	4
	日頃から問題意識を強く持って物事を見るよう指導している	1	2	3	4
	原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導している	1	2	3	4
	物事の原因を考える際には、複数の仮説を立てて検証するよう指導している	1	2	3	4
	物事の因果関係を、論理的に考える機会が多い	1	2	3	4
	問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにしている	1	2	3	4
計画 立案力	自分で何らかの目標を設定させて、授業に臨ませている	1	2	3	4
	結果を出すために、途中段階の具体的な目標を設定させるようにしている	1	2	3	4
	ゴール(目指す姿)をイメージしてから、課題に取り組ませるようにしている	1	2	3	4
	目標を達するまでに、先生方に対して、授業方法やプログラム内容に関するアンケートを実施して、授業毎に得られる学習成果を把握する	1	2	3	4
	想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導している	1	2	3	4
	計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させている	1	2	3	4
	立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげるよう指導している	1	2	3	4

■ 尺度得点（個人内標準化得点）



統率力の伸長に関与度の高い授業と、低い授業のアンケート結果を比較して、統率力の伸長に効果的な授業方法を探る

全学的な普及へ